

論文審査の要旨

報告番号	甲・㉔ 第 3011 号	氏名	譚 榮韶
論文審査担当者	主査 柴田 孝則 教授 副査 本田 一穂 教授 副査 瀧本 雅文 教授		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>腎尿細管細胞は、損傷後に細胞を再生させる能力を持っている。また細胞再生時に細胞移動は重要な役割を果たす。一方、「ラメリポディア」と呼ばれる膜状構造物の形成を含む細胞形態の変化が細胞が移動する際に重要であることが示されているが、細胞移動の超微形態は、ほとんど報告されていない。本研究では培養細胞系の走査電顕的解析を試み、腎尿細管細胞が細胞移動する時の超微形態の変化を観察している。主な知見は、浮遊状態の尿細管細胞は表面に無数の小球状構造を有するタイプと微絨毛様構造を有するタイプの 2 種類の細胞があること、及び、接着した直後に腎尿細管細胞はラメリポディアに酷似した膜状構造を 360 度方向に作り出すことであった。時間が経過すると、初期に形成される「フィロドピア」とよばれる突起状構造と比較すれば、格段に長く多方向に分枝したフィロドピアの形成を観察した。上述の知見は過去に報告されておらず、将来、腎尿細管細胞障害の治療戦略を立てる際に参考所見となりうる可能性を秘めている。</p> <p>以上より本論文は急性腎障害の治療戦略研究に重要な新知見を加えるもので、学位授与に値するものと判定した。</p> <p>論文題名 : Ultrastructural Aspects of Rat Renal Tubular Epithelium <i>In Vitro</i>: Scanning Electron Microscopy (SEM) Analyses at Various Stages of Culture (細胞培養系におけるラット腎尿細管細胞の超微形態学的側面 : 培養の各段階における走査電子顕微鏡的解析)</p> <p>掲載雑誌名 : The Showa University Journal of Medical Sciences Vol. 29 No. 3 (2017 年 9 月) 掲載予定</p>			

(主査が記載、500 字以内)